

ispace、HEX20 将来の月周回軌道への衛星輸送における協業について覚書を締結

株式会社 ispace（東京都中央区、代表取締役：袴田武史、以下 ispace）（証券コード 9348）は、インドの超小型衛星関連技術を手がける企業である HEX20Lab India Private Limited(以下 HEX20)と、将来のキューブサットの月周回軌道への輸送および展開に関する覚書を締結したことを本日、イタリアのミラノで開催中の第 75 回 国際宇宙会議（IAC）にて、発表いたしました。



IAC の ispace ブースに展示する APEX 1.0 レプリカの前で、株式会社 ispace 代表取締役 CEO & Founder の袴田武史（左）と HEX20 CEO & Co-Founder の Lloyd Jacob Lopez 氏

このたび、両社が署名した覚書は ispace の月着陸船による HEX20 キューブサットの月周回軌道への打ち上げと展開を視野に入れたミッションに関する交渉をスタートさせる最初のステップとなります。なお当社は 2023 年 10 月に、インド初の民間開発ロケットの宇宙空間到達を成功させた Skyroot Aerospace Private Limited 社および HEX20 の親会社であるオーストラリアの Hex20 Pty Ltd 社との間で、将来的な月周回衛星ミッションの需要創出 に向けて協力する 3 社間覚書を締結しております。

■ 株式会社 ispace 代表取締役 CEO & Founder 袴田武史 コメント

「月における衛星とそのインターフェースの整備は、月周回軌道での活動を加速させるために不可欠であり、キューブサットがとても重要な役割を果たすはずです。私たちは HEX20 との協業によりこのようなコンセプトを実現できることを非常に楽しみにしております」

■ HEX20 CEO & Co-Founder ロイド・ジェイコブ・ロペス コメント

「ispace 社との地球周回軌道を超えた本コラボレーションに着手できることを非常に嬉しく思います。当社のキューブサットを月周回軌道に投入することは、『多様なミッションに対して信頼性が高く費用対効果に優れた衛星プラットフォームを提供する』という HEX20 が掲げるミッション（使命）においても大変画期的な出来事です。このパートナーシップは、月探査を前進させるだけでなく、シスルナ経済圏における様々な活動機会の創出につながっていくと思います」

ispace は、日・米・欧の 3 法人でそれぞれの地域の文化や多様性を活かしながら、1 つの統合的なグローバル企業として宇宙開発を進めてまいりました。最速 2024 年 12 月に日本法人が主導するミッション 2、続いて 2026 年には米国法人が主導するミッション 3 を順次実行していく計画です。また、2027 年には、現在日本で開発中のシリーズ 3 ランダー（仮称）を用いたミッション 6 を予定しています。世界中の政府、企業、教育機関からの高まる需要に応えるため、ispace はミッション 3 およびそれ以降のミッションのペイロードサービス契約とデータサービスを提供してまいります。

■ HEX20 Lab India Private Limited について

HEX20 は、インドとオーストラリアに拠点を置く革新的な小型衛星企業であり、キューブサットおよび小型衛星市場向けに、費用対効果の高いプラットフォーム、カスタマイズされたハードウェア、および高度なセンサー技術を提供しています。HEX20 は、地球低軌道（LEO）およびシスルナ空間におけるソリューションとして、商業、防衛、学術用途向けに、費用対効果が高く、信頼性が高く、使いやすい高品質なハードウェアプラットフォームを提供することを目指しています。

■ 株式会社 ispace (<https://ispace-inc.com/jpn/>)について

「Expand our planet. Expand our future. ~人類の生活圏を宇宙に広げ、持続性のある世界へ~」をビジョンに掲げ、月面資源開発に取り組んでいる宇宙スタートアップ企業。日本、ルクセンブルク、アメリカの 3 拠点で活動し、現在約 300 名のスタッフが在籍。2010 年に設立し、Google Lunar XPRIZE レースの最終選考に残った 5 チームのうちの 1 チームである「HAKUTO」を運営した。月への高頻度かつ低コストの輸送サービスを提供することを目的とした小型のランダー（月着陸船）と、月探査用のローバー（月面探査車）を開発。民間企業が月でビジネス



を行うためのゲートウェイとなることを目指し、月市場への参入をサポートするための月データビジネスコンセプトの立ち上げも行う。2022年12月11日には SpaceX の Falcon 9 を使用し、同社初となるミッション1のランダーの打ち上げを完了。続くミッション2の打ち上げを最速2024年12月に、2026年ⁱⁱにミッション3、2027年にⁱⁱⁱミッション6の打ち上げを行う予定。

ミッション1の目的は、ランダーの設計および技術の検証と、月面輸送サービスと月面データサービスの提供という事業モデルの検証および強化であり、ミッション1マイルストーンの10段階の内 Success8 まで成功を収めることができ、Success9 中においても、着陸シーケンス中のデータも含め月面着陸ミッションを実現する上での貴重なデータやノウハウなどを獲得することに成功。ミッション1で得られたデータやノウハウは、後続するミッション2へフィードバックされる予定。更にミッション3では、より精度を高めた月面輸送サービスの提供によって NASA が行う「アルテミス計画」にも貢献する計画。

ⁱ 2024年10月時点の想定

ⁱⁱ 2024年10月時点の想定

ⁱⁱⁱ 2024年10月時点の想定